

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 理事会

日 時：平成18年06月30日（金）10:20 ～ 11:20 A.M.

場 所：奈良県新公会堂（小会議室3）

出席者：市村（理事長），細井（第1回会長），飯野，伊藤，大迫，小河原（会計担当），川城（庶務担当），工藤（編集担当），阪上，佐野，内藤，西崎，福永，田中，早川，泰地，深美，守本，家根，矢野（50音順，敬称略）

1. 日本小児耳鼻咽喉科学会の件

市村理事長より研究会から学会になった経過と小児耳鼻咽喉科学会第1回大会開催についての感謝が述べられた。

2. 第1回日本小児耳鼻咽喉科学会の件

細井裕司会長より表記大会開催についての挨拶があった。

3. 平成17年18年度移行期事業報告（川城理事）

第53回日本小児耳鼻咽喉科研究会を平成17年12月3日東京，灘尾ホールにおいて日本医科大学小児科福永慶隆会長のもとに開催した。

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成18年6月30日，7月1日奈良県新公会堂において細井裕司会長主催のもとに開催することが決定した。

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成19年6月23日，24日仙台市医師会館において小林俊光会長主催のもとに開催することが決定した。

日本小児耳鼻咽喉科学会誌Vol. 26-2，27-1を発行した。

平成17年，18年度移行期評議員および理事会を平成17年12月3日に開催した。

ホームページのアドレス，並びに事務局のメールアドレスを変更し，内容を変更，充実させた。

日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席した。

小児急性中耳炎ガイドライン作成に際し，日本小児耳鼻咽喉科学会の代表者の意見を述べ，作成に寄与した。

平成18年5月31日現在，正会員669名，団体会員11，購読会員1，寄贈会員6であり，正会員は昨年より約30名増加した。

4. 平成17年，18年度移行期会計報告（小河原理事）

平成17年度と18年度の移行年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算案について説明があった。寄付，協賛による収入が減少したこと，学会助成金が入らなかったこと，小児急性中耳炎ガイドラインを掲載したため印刷費が増えたこと，などにより約60万円の赤字であることが報告され，了承された。

5. 会計監査報告（早川監事）

日本小児耳鼻咽喉科学会平成17年度と18年度の移行年度決算書類を監査した結果，適正であったことが報告され，承認された。

6. 平成18年度事業計画案

川城理事より平成18年度事業計画案について以下の説明があり，了解された。

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成18年6月30日，7月1日奈良県新公会堂において細井裕司会長主催のもとに開催する。

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成19年6月23日，24日仙台市医師会館において小林俊光会長主催のもとに開催に向け準備する。

日本小児耳鼻咽喉科学会誌Vol. 27-2，27-3，28-1を発行する。

平成18年度評議員および理事会を平成18年6月30日に開催する。

ホームページの維持，充実をはかる。

日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席する。

7. 平成18年度会計予算案（小河原理事）

平成18年度日本小児耳鼻咽喉科学会予算案について説明があり承認された。収入の部では，会費が上がったが，学会に昇格したことで研究会参加費，寄付・協賛が減少した。支出の部ではプログラム印刷費がなくなったが，会誌印刷費が年間3冊発刊することで増えるため，支出小計に大きな変化はないこと，などが説明された。

8. 学会誌編集報告（工藤理事）

学会誌を年3回発行し，Vol. 27-2より，ページの通し番号をつけたことの報告があった。第1回日本小児耳鼻咽喉科学会抄録集を今回1000円で販売しているが，原価は1800円程度かかっており，来年度から販売価格を検討すべきとのことであった。Vol. 27-1は小児急性中耳炎ガイドラインが掲載されているため，バックナンバー購入希望者が多く，同様に販売価格を検討すべきとのことであった。

9. 各種委員会報告

1) ホームページ委員会（飯野理事）

過去の学会プログラムの掲載は個人情報の問題があり削除したいとの提案があったが、過去の閲覧ができることは大変有用であるとの意見があり、委員会にて再検討されることになった。

全国の小児病院とリンクさせる提案があり、病院に了解を得た上でリンクさせることが了承された。

これまでは大きな国際学会とはリンクさせてきたが、人工内耳、聴覚スクリーニングなどをテーマとした小規模な国際学会や研究会ともリンクさせ、会員に広く情報提供を行うことになった。

2) 用語委員会（細井理事）

日本耳鼻咽喉科学会より用語の点検に関わる依頼があったことが報告された。

3) 保険医療委員会（佐野理事）

平成18年度の保険点数改正に関して厚生省より意見を聞かれた経緯もあり、来年度を見越して準備を進めていきたいと報告された。

10. 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会について（市村理事長）

第3回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を鹿児島大学耳鼻咽喉科、黒野祐一会長のもとに開催することが提案され、承認された。

11. 理事，評議員の推薦

川城理事より評議員，理事の推薦者が報告され承認された。

評議員の馬場廣太郎会員（獨協医科大学）の退任が報告され，後任に春名眞一会員が推薦され承認された。また，長井今日子会員（群馬大学）が評議員に推薦され承認された。川城信子庶務担当理事が辞任し，顧問となることが承認された。代わりに泰地秀信会員（国立成育医療センター）が庶務担当の理事に推薦され，承認された。鈴木淳一先生，古賀慶次郎先生が名誉会員に推薦され，承認された。

12. 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会（矢野会長代理）

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会が平成19年6月23日，24日に開催されることが報告され挨拶があった。

13. その他

その他の事項として，細井会長より第1回大会は小児科からの演題が少なかったことが報告され，第2回は小児科の先生に演題提出を働きかけるべきとの指摘があった。

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議員会

日 時：平成18年06月30日（金）11:25 ～ 12:25 A.M.

場 所：奈良県新公会堂（レセプションホール）

出席者：市村（理事長），細井（第1回会長），新井，飯野，石神，石川，伊藤，大迫，小河原（会計担当），河内，川崎，川城（庶務担当），工藤（編集担当），小林（武），小林（一），小松崎，阪上，阪本，佐藤，佐野，鈴木，泰地，田中，寺本，戸川，内藤，中井，西崎，早川，氷見，福永，間島，横山，深美，守本，家根，矢野（50音順，敬称略）

1. 日本小児耳鼻咽喉科学会の件

市村理事長より研究会から学会になった経過と小児耳鼻咽喉科学会第1回大会開催についての感謝が述べられた。

2. 第1回日本小児耳鼻咽喉科学会の件

細井裕司会長より表記大会開催についての挨拶があった。

3. 平成17年18年度移行期事業報告（川城理事）

第53回日本小児耳鼻咽喉科研究会を平成17年12月3日東京，灘尾ホールにおいて日本医科大学小児科福永慶隆会長のもとに開催した。

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成18年6月30日，7月1日奈良県新公会堂において細井裕司会長主催のもとに開催することが決定した。

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成19年6月23日，24日仙台市医師会館において小林俊光会長主催のもとに開催することが決定した。

日本小児耳鼻咽喉科学会誌Vol. 26-2，27-1を発行した。

平成17年，18年度移行期評議員および理事会を平成17年12月3日に開催した。

ホームページのアドレス，並びに事務局のメールアドレスを変更し，内容を変更，充実させた。

日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席した。

小児急性中耳炎ガイドライン作成に際し，小児耳鼻咽喉科学会の代表者の意見を述べ，作成に寄与した。

平成18年5月31日現在，正会員669名，団体会員11，購読会員1，寄贈会員6であり，正会員は昨年より約30名増加した。

4. 平成17年，18年度移行期会計報告（小河原理事）

平成17年度と18年度の移行年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算案について説明があった。寄付，協賛による収入が減少したこと，学会助成金が入らなかったこと，小児急性中耳炎ガイドラインを掲載したため印刷費が増えたこと，などにより約60万円の赤字であることが報告され，了承された。

5. 会計監査報告（早川監事）

日本小児耳鼻咽喉科学会平成17年度と18年度の移行年度決算書類を監査した結果，適正であったことが報告され，承認された。

6. 平成18年度事業計画案

川城理事より平成18年度事業計画案について以下の説明があり，了解された。

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成18年6月30日，7月1日奈良県新公会堂において細井裕司会長主催のもとに開催する。

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を平成19年6月23日，24日仙台市医師会館において小林俊光会長主催のもとに開催に向け準備する。

日本小児耳鼻咽喉科学会誌Vol. 27-2，27-3，28-1を発行する。

平成18年度評議員および理事会を平成18年6月30日に開催する。

ホームページの維持，充実をはかる。

日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席する。

7. 平成18年度会計予算案（小河原理事）

平成18年度日本小児耳鼻咽喉科学会予算案について説明があり承認された。収入の部では，会費が上がったが，学会に昇格したことで研究会参加費，寄付・協賛が減少した。支出の部ではプログラム印刷費がなくなったが，会誌印刷費が年間3冊発刊することで増えるため，支出小計に大きな変化はないこと，などが説明された。

8. 学会誌編集報告（工藤理事）

学会誌を年3回発行し，Vol. 27-2より，ページの通し番号をつけたことの報告があった。第1回日本小児耳鼻咽喉科学会抄録集を今回1000円で販売しているが，原価は1800円程度かかっており，来年度から販売価格を検討すべきとのことであった。Vol. 27-1は小児急性中耳炎ガイドラインが掲載されているため，バックナンバー購入希望者が多く，同様に販売価格を検討すべきとのことであった。

9. 各種委員会報告

1) ホームページ委員会（飯野理事）

過去の学会プログラムの掲載は個人情報の問題があり削除したいとの提案があったが、過去の閲覧ができることは大変有用であるとの意見があり、委員会にて再検討されることになった。

全国の小児病院とリンクさせる提案があり、病院に了解を得た上でリンクさせることが了承された。

これまでは大きな国際学会とはリンクさせてきたが、人工内耳、聴覚スクリーニングなどをテーマとした小規模な国際学会や研究会ともリンクさせ、会員に広く情報提供を行うことになった。

山中評議員よりホームページ委員会に対し、○1 ホームページ上の過去の研究会プログラムはパスワードで保護して残し、閲覧可能にするべき、○2 印刷費が増えないよう、PDFファイルを活用すべき（学会誌のオンラインジャーナル化）、○3 一般への啓蒙・教育ができるようなページを作るのはどうか、という提案があり、検討されることになった。

2) 用語委員会（細井理事）

日本耳鼻咽喉科学会より用語の点検に関わる依頼があったことが報告された。

3) 保険医療委員会（佐野理事）

平成18年度の保険点数改正に関して厚生省より意見を聞かれた経緯もあり、来年度を見越して準備を進めていきたいと報告された。

10. 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会について（市村理事長）

第3回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会を鹿児島大学耳鼻咽喉科、黒野祐一会長のもとで開催することが提案され、承認された。

11. 理事、評議員の推薦

川城理事より評議員、理事の推薦者が報告され承認された。

評議員の馬場廣太郎会員（獨協医科大学）の退任が報告され、後任に春名眞一会員が推薦され承認された。また、長井今日子会員（群馬大学）が評議員に推薦され承認された。川城信子庶務担当理事が辞任し、顧問となることが承認された。代わりに泰地秀信会員（国立成育医療センター）が庶務担当の理事に推薦され、承認された。鈴木淳一先生、古賀慶次郎先生が名誉会員に推薦され、承認された。

12. 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会（矢野会長代理）

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会が平成19年6月23日, 24日に開催されることが報告され挨拶があった。

13. その他

その他の事項として、細井会長より第1回大会は小児科からの演題が少なかったことが報告され、第2回は小児科の先生に演題提出を働きかけるべきとの指摘があった。また、鈴木顧問より古賀顧問と共同して第1回大会開催に際しての挨拶と祝辞が述べられた。

理事長 市村 恵一

庶務担当 泰地 秀信

文責 深美 悟

幹事 佐々木祐佳子, 守本 倫子,

矢野 寿一

学会事務局からのお知らせ

1. 持ち回り理事会で坂田英明，井口郁雄，松谷幸子，望月高行，熊本真優子，笹村佳美の6名の評議員推薦が決まりました。次回の評議員会で審議されます。
2. 理事長の要請により，小児耳鼻咽喉科の担当範囲，サブスペシャルティーターとしての小児耳鼻咽喉科医の到達目標を設定するためのワーキング・グループが立ち上がりました。基本的に小児病院常勤医にメンバーとなってもらい，現状の把握と，将来を見据えての作業をお願いしました。9月30日に第1回会合を持ち，代表に小河原理事を選出しました。メンバーには佐野，泰地各理事と阪本評議員，それに全国の小児病院代表として坂田，仲野，熊本，由良，中井，笹村，益田の各氏が選ばれております。
3. 日耳鼻から日耳鼻IDカードを利用した専門医学術集会参加受付を行うよう要請がありました。持ち回り理事会で審議した結果，来年の第2回の総会から日耳鼻IDカードを利用した専門医学術集会参加受付を行うことになりました。
4. 日本耳科学会が核となり本学会と耳鼻咽喉科感染症研究会が協力して作成した小児急性中耳炎診療ガイドラインが公表されましたが，10月にはそのreviseを始めようと耳科学会から申し入れがあり，委員会に参加するメンバーとして飯野，泰地両理事を推薦しました。
5. 日本学術会議から「科学者の行動規範について」という声明が出されましたが，その暫定版に対して質問があり，回答しました。集計を待ち，今回の声明になっています。会員もぜひその声明を読んで下さい。

文責 市村恵一